

【ドキュメンタリー映画】

ヒロシマ、 そしてフクシマ

監督・撮影・編集：マルク・プティジャン

出演：肥田舜太郎 野原千代 三田 茂 他

監督・撮影・編集：マルク・プティジャン / プロデューサー：山本順一

挿入動画：ロマン・ルノー / 音楽：リーズ・ノラ / 音声：百々保之

通訳：人見有羽子 / 翻訳：岩貞佐和

制作プロダクション：ミラージュ・イリミテ

製作：ドミニク・ペロワール / マルク・プティジャン

国際配給：Docandfilms

日本語ナレーション：水津 聡

原題：De Hiroshima à Fukushima — Le combat du docteur Hida

【2015 / 日本・フランス / HD / 80分】

©MIRAGE ILLIMITE / HISTOIRE 2015

配給：太秦

doctorhida.wordpress.com

みなさん、
肥田舜太郎医師を
ご存知ですか？

1945年8月6日の原爆投下の日

広島近郊で被爆者の治療にあたった医師が問いかけるものとは——

今年九十九歳を迎えた肥田舜太郎医師が発散しつづける溢れんばかりの生命力には驚かされる。

70年前の被爆の実相であれ、核兵器廃絶への闘いであれ、じわじわと続くであろう「内部被曝」の問題であれ、

語られる内容は深刻そのものなのに、長年それに立ち向かってこられた先生の義勇たる姿勢に感動して、こちらも元気になる。

「治療法はない。被曝した者が生きのびる方法はたったひとつ、自分が親からもらった健康力、健康力を伸ばして、

自分で自分の命を守って闘う。それが放射線との闘いだ」とは、医師としてなんとつらい、しかしなんと深い激励の言葉であろうか。

——高畑勲(映画監督)



フランス人監督が追う肥田舜太郎医師96歳最後の闘い

肥田舜太郎医師のことを話す時、誰もが「肥田先生」と親しみと尊敬を込めて呼びます。

肥田先生は原爆投下の1945年8月6日以来、若い軍医として広島で被爆者の治療にあたり続けました。そのうち、この日広島にいないで爆撃を直接身に受けなかった人々が、後になって突然発病し、被爆者と同じ症状を示して死んで行くという例を数多く目撃しました。それが内部被曝によるものであることを突きとめた先生は、それまで知らなかった内部被曝というものの脅威を世界に向けて訴えつづけています。



科学を名乗った最も権威のある集団が嘘をついている——

カメラは、原発事故の被災者が暮らす町へと赴く先生を映し出します。先生には戦後65年にわたり広島・長崎の生存者を診療し続けてきたという治療体験があります。内部被曝の危険性は、核所有国の政府当局者達によって隠蔽されてきたのです。最後の力を振り絞り、愚かな選択と歴史から何も学ぼうとしない体制に向けて警鐘を鳴らし続けています。そして、肥田先生の足は沖縄にも向かいます。日本に原爆を投下した米軍や日本に民間用原子力産業を導入したアメリカに対して、ハッキリとノーと言います。先生が願ってやまない、平和で核のない新しい日本の到来に向けて……。本作は一人の被爆医師の執念ともいうべき言葉を追ったドキュメンタリーです。



肥田舜太郎医師の言葉

いわゆる放射線被害というものは、どんな形であれ二度とあってはいけない。
どんな小さな規模といって、専門家が安心だと言っても、全くの嘘ですから。
放射線というものは人間の手にはおえない。

監督・撮影・編集：マルク・ブティジャン / プロデューサー：山本肇 / 出演：肥田舜太郎 野原千代 三田 茂 他 / 挿入動画：ロマン・ルノー / 音楽：リーズ・ノラ / 音声：石々麻之 / 翻訳：人見有羽子 / 翻訳：岩倉佳和
制作プロダクション：ミラージュ・イリミテ / 制作：ドミニク・ペロワール / マルク・ブティジャン / 国際配給：Docandfilms / 原題：De Hiroshima à Fukushima — Le combat du docteur Hida / 日本語ナレーション：水津聡
日本語字幕：山本肇 / 配給：太秦【2015 / 日本・フランス / HD / 80分】 *MIRAGE ILLIMITE / HISTOIRE 2015

doctorhida.wordpress.com

ヒロシマ、そしてフクシマ

10月9日(日) 13:00~開場 浜松市地域情報センターホール 料金 1,000円

13:30~14:00 浜岡原発はいらない浜松の会定期総会

14:10~15:30 映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」上映

チケット問合せ 浜岡原発はいらない浜松の会 465-0229・村松

浜岡原発はいらない浜松の会総会記念企画
です。どなたでもご覧できます。